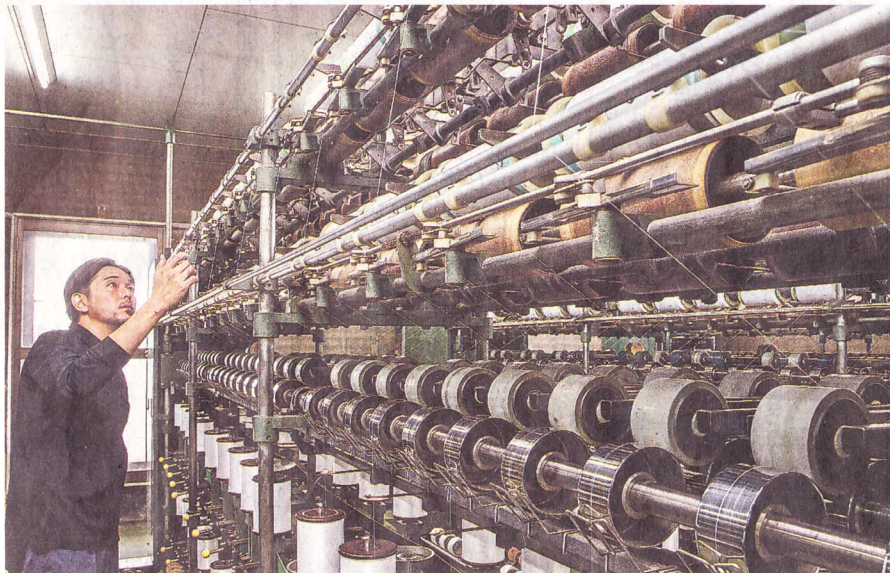


より合わされる糸の状態を確認する岡本専務。  
仕上がりは、髪の毛よりも細い



備後の  
百年企業

東洋撚糸工業

福山市御幸町

## 時代にマッチ 細く長く

化学繊維や金属など複数の糸をより合わせて作る「撚糸」。企業のニーズに合わせてオリジナルの糸を作り出す。「中小企業はニッ

換。戦後、材料の絹はレーヨンやナイロンなど化学繊維に代わった。

チで勝負」と5代目の岡本泰三専務(38)。小ロットでも注文を受け、出荷された糸は工業製品のほか、シャツや靴下など身近な商品にもなり消費者に届く。

「より伸縮性が高く、頑丈な糸に」。新しい繊維の普及に伴い企業からの注文が増え、それに応えてきた。岡本専務は「物理学者から、高純度のアルミ線の撚糸加工を受けたときは頭を抱えた」と苦笑いする。

工場では10台の糸より機が、同時に2千本の糸をより出す。ガタガタとけたたましいい音とは裏腹に糸は進まない。1分に10匹ほどのゆっくりとしたペースが、むらのない均一な糸を生み出す。

日々挑戦の現場の中で5年ほど前から取り組んでいるのが「糸電線」。通電する布を織ることができ、衣服が電子端末になる可能性を秘める。岡本専務は「絹糸からは想像できなかったもの。糸のように細く長く、時代に求められるものを作り

1907年、着物用の絹織物の工場として創業し、戦時中に撚糸製造へと転

ける。(井上貴博、写真も)